

教育研究全国集会2023 教育のつどい in 東京

憲法と子どもの権利条約が いきて輝く教育と社会を確立しよう

記念講演は、立教大学名譽教授・浅井春夫さんの「子の思い方を探求する」を大切にする教育実践と国のある心の政治に抗して、私ができる限りの教育実践は子どもの事実・現実・真実に関心を持ち続けることであることや、「あらたな戦前」となる可能性が大きい時代に政治的教養は子どもたちに教職員自身にも必須であることが話されました。（続きは2面）

現地企画は、課題が集中する東京の公教育壊しに抗するみなさんのとりくみが次々に報告されました。（続きは2面）

次に、代表委員・西川香子さん（子ども全国センター・新婦人の開会あいさつ、現地実行委員長・山本由美さん（和光大学）から歓迎のあいさつ、波岡知朗事務局長の「討論の呼びかけ」が行われました。

も行われました。オープニングは東京の障害児学校・学級の子どもたちや卒業生でつくるダンスサークル「RESE」によるダンスで、会場から自然と手拍子が起こり、会場が一体となる活気あふれる幕開けとなりました。

オープニングに感動
開会全体集会が8月18日、
東京都・北とぴあで行われまし
た。オンラインのライブ配信

教育の一といたりてはの
オリ・ピニンガに感動

発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ

<http://kakyoso.com/>

「教育の充実・発展を求める署名」 2528 筆者出

今年で12回目を迎えた重みを感じている。寄宿舎は生活の場であり、自立支援の場である。(県教委高校教育課)

年9月22日 2023年
寄宿舎教育の充実・発展を求める要旨を提出しました。
県教委特別支援教育課 寄宿舎教育充実・発展を求める要旨
会・香教組・高教組・は、
対し「寄宿舎教育の充実・発展を求める要旨」を提出しました。
昨年比1.4倍を提出しました。

こと。

① 寄宿舎指導員の採用試験は毎年実施し、正規寄宿舎指導員の欠員を改善すること。

② 寄宿舎指導員には、専門性を重視した採用をすること。

③ 昇任試験の条件を緩和する」と。

④ 寄宿舎指導員の年齢、男女比を考慮した配置を行い、実情に合わせて加配すること。

⑤ 特別支援学校ではない香川県立農業経営高校の寄宿舎指導員は、別途適正な人數を配置すること。

- 中部支援学校の4校に設置されている寄宿舎の充実と発展
- 障害児・者の教育を受ける権利、自立・文化・自治活動等の生きる力を育む環境を保障
- 2012年より続いている寄宿舎指導員採用試験の継続
- 「標準法」による適正な配置現行香川県内で47名配置だが、1名不足状態



高校教育課三笠主任管理主事と 久利香教組寄宿舎指導員部長

8月18日から3日間、教育のつどい2023が東京都で開催されました。開会全体集会・教育フォーラムは会場とオンラインの併用で行われ、分科会はコロナ禍以前と同じように会場参加で行われました。4年ぶりに全日程を対面で行うことができた教育のつどい2023は、保護者・教員・市民・子どもとの交流で3500人が参加しました。香教組からもベテラン・青年教員5名が参加しました。

高校教育課かん

A man in a white shirt holds up two charts from a presentation. The top chart is titled '正規喫煙者構成(年代別)' and shows the percentage of regular smokers by age group: 20-39 years (35%), 40-59 years (35%), 60-69 years (24%), and 70歳以上 (6%). The bottom chart is titled '正規喫煙者構成(性別別)' and shows the percentage of regular smokers by gender: Male (47%) and Female (24%).

○ 寄宿舎が、生活の場であり、自立支援の場である。

○ 与体系の見直しまでに至っていらない。（22年度と同じで変化はないが引き続き要望していく）

○ 2級渡りで、教員免許の持っていない人の昇任講習については、おつしやつていただけば、まずはご相談いただきたい。お願いしたい。（22年度と同じで変化はないが、おつしやつていただけば…まずはご相談いただきたい。）

学びの旬

があり、発達段階を飛ばして次へ進むと不具合が出てきます。同じ学ぶ意欲も高まりません▼同じように教員の成長にもプロセスがあると思います。新採の時から、センスがあり様々な実践力を兼ね備えている人は稀です▼子どもの成長に時間がかかるよう、教員の成長にも時間がかかります。理想論を述べて「ああしろ・こうしろ」や「自分で考えてどうにかしなさい」や弱点だけを指摘するような指導では、伸びません▼学年団や教師集団で子どもについて語り合い、実践について情報交換をしながら成長していくのです▼放課後、黙々とPCに向かって個人で仕事をしていくは伸びるはずがありません。温かい職場と個々人のゆとり抜きにしては、子どもはもちろん教員も成長しないと思うのです。

小黑板

「世代間の継承」

(教育のつどい2023 続き)
温かさを感じることが
できたフォーラム・分科会

フォーラムA「子ども時代を
デザインする」では、子どもた
ちの「いばしょ」を保障し、
「子ども時代」はどうあるべき
かについて深めました。

フォーラムB「どうする?教
育DX」では、教育DXの時代だ
からこそ子どもたちが深く考える
授業が大切。教育DXが教師を脱
専門職化している課題、培つて
きた今日いう遺産の豊かさをど
うとらえるか、様々な視点で語
られました。

フォーラムC「多様性を尊
重する社会と教育とは」では、
子どもだけでなく様々な人に対
する多様性を認める社会にする
ことが必要だと語られました。
約200人の参加がありました。

フォーラムD「戦争ではなく
平和の準備を」子ども・若者と
つくる平和ー」では、参加した
青年の平和への思いに共感が広
がり、佐貫浩さん(法政大)が
「平和への願いを教育現場の自
治と『政治』につなげよう」と
と問題提起しました。

現地フォーラムE「地域の学
校を守る共同の力」では保護者・
市民・教職員から多くの発言が
ありました。新自由主義による
格差が拡大している中、子ども
たちに教育権の保障をと問題提
起されました。高校生の保護者は
は「学校の先生にもっと社会に
目を向けてほしい」と発言があ
りました。

分科会は19・20日に行われ、
今年度から再編された7つの課
題別分科会と教科別分科会11を
合わせて18の分科会で熱心な討
りました。

国連子どもの権利委員会は、
日本政府第4・5回報告審査
最終所見で、競争的な社会か
ら「子ども期」をまもり「そ
の子どもを大切にすること」
と題目提出しました。意見
を「可能とする環境」の保障
を確保し必要な措置を取るよ
う課題提起をしている。意見
を表明権を保障するには、それ
を「あらゆる育ちの場面で子ど
もの「力を伸ばすような」参
加の促進が必要。子どもの保
護に関する包括的な政策発展
を打ち出しているが、全
ては国家のネグレクトに等しかつ
た。今でも「少子化」は政治

論が行われました。4年ぶりの
完全対面で、顔を合わせて語り
合ふことで、励まし励まされる
ことの温かさを感じることができます。
香教組は、分科会A「参加と
「子どもの人権と学校・地域・
家庭・文化活動」で、ベテラン
議会代表幹事で、子どもの
権利条約NGO・市民の会共同
代表を務める浅井春夫さん
が、「人間と性」教育研究協
会実践や組合活動・政治活動の
大切さを語りました。自らに
引き付けて、「私ができるこ
と」として、「抵抗権の旗を
掲げて闘う」を自作の詩を朗
読して講演を締めくくりまし
た。

記念講演

子どもの思いを大切にする教育実践と国のある方を探求する
子どもへの無関心の政治に抗して、私ができること

論が行われました。4年ぶりの
完全対面で、顔を合わせて語り
合ふことで、励まし励まされる
ことの温かさを感じることができます。
香教組は、分科会A「参加と
「子どもの人権と学校・地域・
家庭・文化活動」で、ベテラン
議会代表幹事で、子どもの
権利条約NGO・市民の会共同
代表を務める浅井春夫さん
が、「人間と性」教育研究協
会実践や組合活動・政治活動の
大切さを語りました。自らに
引き付けて、「私ができるこ
と」として、「抵抗権の旗を
掲げて闘う」を自作の詩を朗
読して講演を締めくくりまし
た。

と青年教員が共同で実践報告を行いました。
参加した青年教員は、「規模
の大きさや熱気に圧倒されそう
になりましたが、全国に同じよう
うな考えの人がいることがわから
りました」「今回参加して色々
な人とつながることができたの
で、今度は一人で実践発表をし

たいと思います」と話していました。
「学びは力」です。長時間過
密労働はなお改善されませんが、
その解消に声をあげ、学ぶ時間
を取り戻しましょう。
それが子どもたちの未来につ
ながることを信じて。

特別支援学級で半数の時間を過ごす?学習会

2023年9月23日、仏生山交流センターで香教組障害児教育部は、「4.27通知とインクルーシブ教育」について緊急学習会を行いました。4.27通知とは、2022年4月27日に文科省から「週の半数以上を特別支援学級で過ごすこと」と出された通知のことです。

今回は、この通知について学ぶとともに、現状を交流しました。

現在、香川県の特別支援学級は、国語と算数・自立活動が主で、子どもの実態に応じて道徳などを学習しています。「授業時数を増やしても、人手が足りずできない」「子どもに応じては、特別支援学級でフォローしながら今の交流の時間でよい」「通常学級の荒れが目立ち始め、特別支援学級が居場所になっている」「唐突に、2024年度から実施といわれても、在籍している保護者は納得してくれない」など

の現状が出され、今後、どのように対応することが望ましいのかについて話し合いました。

次回は、11月18日(土)
第一部 座ってできるキッズヨガ
第二部 検討中

を予定しています。



青年部

4年ぶりに復活!バーベキュー交流会

2023年9月16日-17日、ほっとステイまんのうで香教組青年部によるバーベキュー交流会が行われました。ご家族も含め10名以上の参加があり、美味しいお肉を食べながら、教育実践や育児の悩み、将来のことなど話が弾みました。



香教組青年部は、コロナ禍の前までは、毎年、ほっとステイまんのうでバーベキュー交流会をしたり、長期休業を利用して、女性部と合同で平和学習を行っていました。平和学習では、広島・長崎・沖縄・福島へ出向き、現地の青年部や女性部と交流し、様々な活動の情報交換もしました。2023年3月には、大久野島毒ガス資料館を見学し、平和学習も復活しています。香教組青年部は、どんどん活動していきたいと意欲を燃やしています。

